

## スマート海上バス「ゆき姫」 試験運航結果について

## 1. 目的と概要

## (1) 目的

完全離島の本町において海上交通サービスの維持が町民生活にとって不可欠であるため、将来的な無人航行実現をも念頭におき、AI を活用した自動航行システムによる海上交通サービスの試験運航を行う。

## (2) 試験運航の概要

概要	大崎上島町～竹原市の航路で、自動運航機能付き船舶（スマート海上バス「ゆき姫」）により、旅客輸送サービスを夜間・早朝の定期航路として実施	
愛称	スマート海上バス「ゆき姫」	
航路	大崎上島町（白水港/福浦港/鮎崎港） ～ 竹原市（竹原港ビジター棧橋） ※「夜間便」は、竹原港→大崎上島町→竹原港（循環する航路） 「早朝便」は、大崎上島町→竹原港（片側方向の航路）	
運航期間	令和7年1月13日（月）～3月31日（月）	
	【 夜 間 便 】	【 早 朝 便 】
設定の狙い	特に、町民の余暇レジャー活動での利用を想定し、土曜日、日曜日を含めた曜日に設定	特に、町民の朝早い通院などでの利用を想定し、平日（月曜日）に設定
運航曜日	金曜日、土曜日、日曜日	月曜日
運航ダイヤ	<input type="checkbox"/> 竹原港発 22:10※ <input type="checkbox"/> 白水港発 22:50 <input type="checkbox"/> 生野島 福浦港発 23:10 <input type="checkbox"/> 鮎崎港発 23:35 <input type="checkbox"/> 竹原港着 24:05 ※高速バス「かぐや姫号」の最終便（21:56 竹原港着）から乗継可能	<input type="checkbox"/> 生野島 福浦港発 4:45 <input type="checkbox"/> 白水港発 5:05 <input type="checkbox"/> 竹原港着 5:45※ ※高速バス「かぐや姫号」の始発便（6:07 竹原港発、平日のみ）に乗継可能
旅客運賃	1乗船 1,000円（消費税込）、PayPayでの支払い可	
利用方法	専用サイトまたは電話により事前予約が必要（ただし、定期航路のため、予約がない便も運航）	



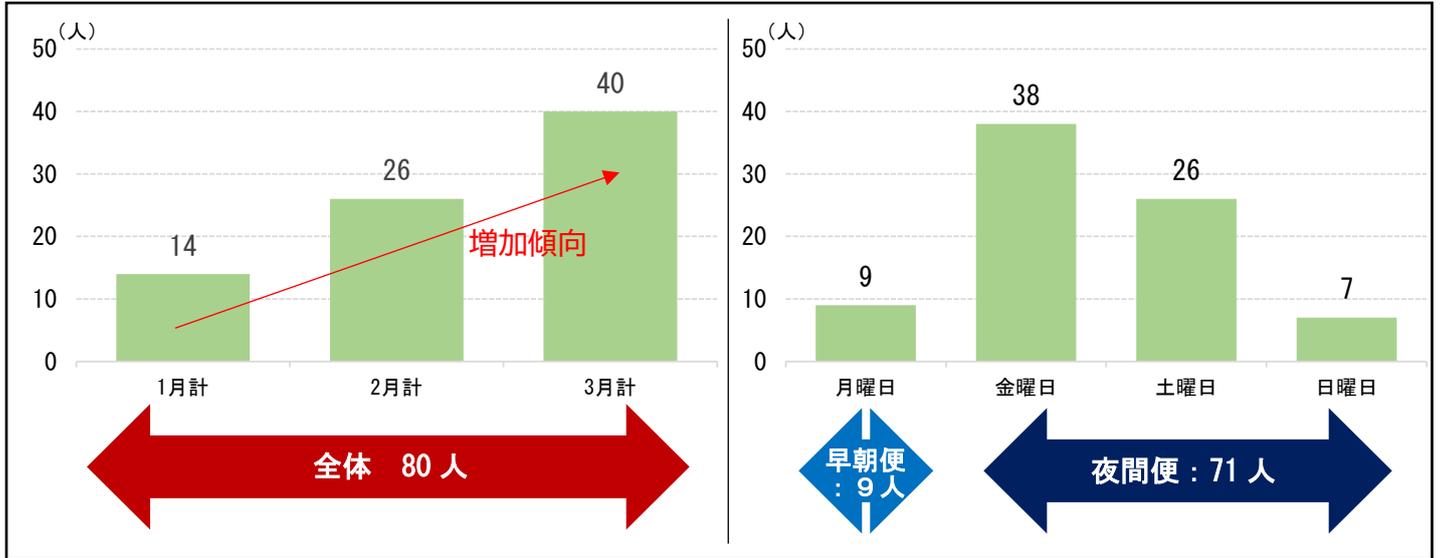
## 2. 試験運航の結果

### 2.1 旅客輸送サービス

#### (1) 利用実績

○期間中の総利用者数は 80 人

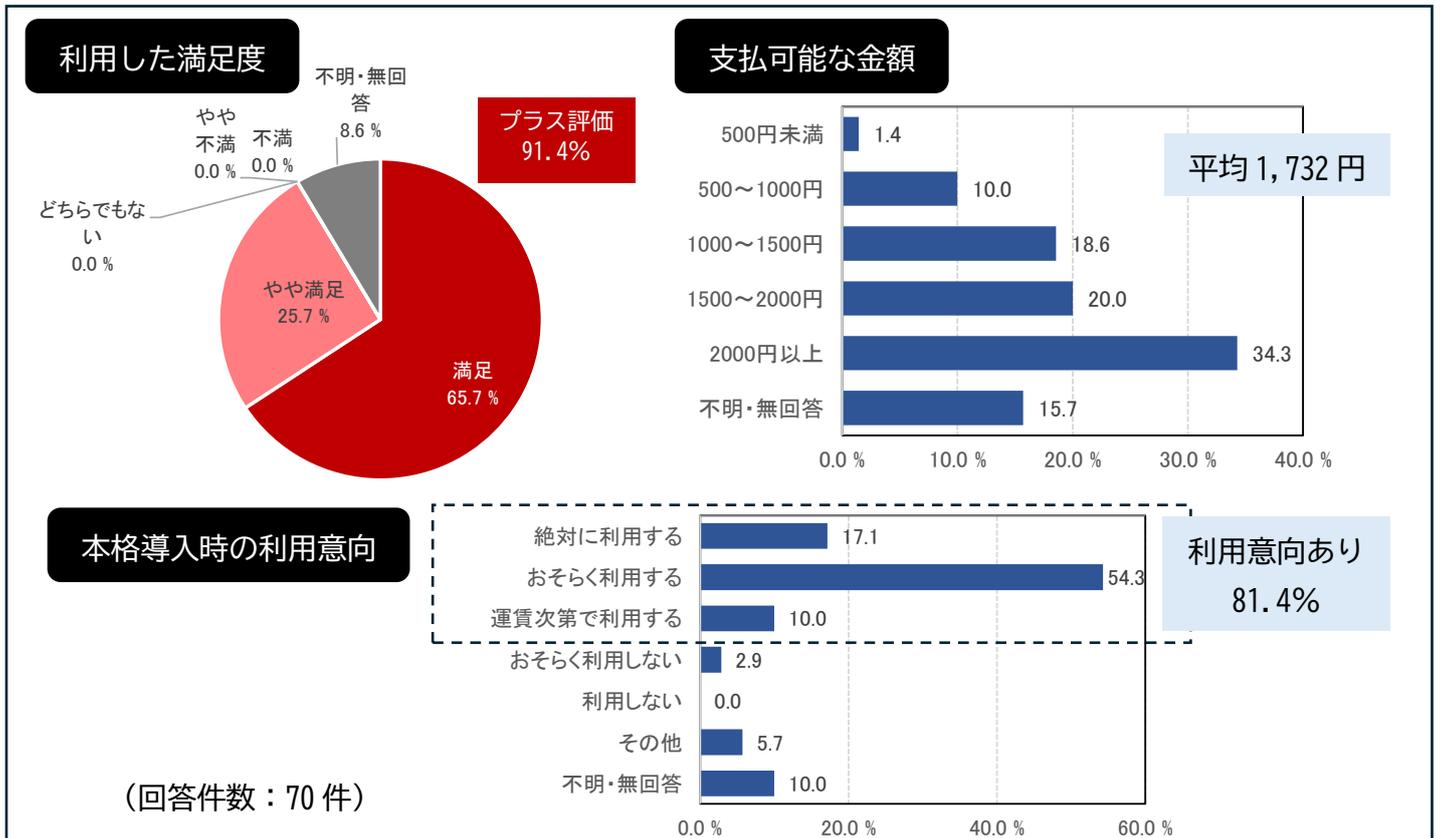
○開始以降、徐々に利用が増加する傾向がある。曜日別では、金曜日の利用が多い。



#### (2) 利用者アンケート結果

○利用者の満足度は高く、運賃の支払可能額の平均は 1,732 円。

○本格導入時に利用意向がある回答は全体の 81.4%。



## 2.2 商品宅配サービス

### (1) 稼働状況

- 生野島住民の全世帯が生協組合員となり、サービスを利用。
- 運航期間内は、全ての配送日（月曜日）に注文が発生。

### (2) 聞き取り結果

- 生野島住民への聞き取り調査の結果、次の意見が聞かれた。

#### ■本業務における商品宅配サービスの（暮らしへの）効果

- ・暮らしが楽になった。生協を当てにしている感じもある。
- ・スーパーに買い物へ行く回数が減った。今までは週に1度、10日に1度、という頻度であったが、今は、何かのついでにスーパーへ行く状況。

#### ■その他

- ・今後も取組を続けてくれると嬉しい。
- ・早朝、夜間便については、町民がもっと知ってくれば、何か機会があるときに利用できる。例えば、最終の「高速バスかぐや姫号」で島へ戻れるとなると、若い人の行動の選択肢が増えると思う。早めに取り組まないと、島に何人残るかわからない。

## 2.3 実施効果と課題

実施効果	<ul style="list-style-type: none"><li>・事故等のトラブルがなく安全かつ安定的に、自動運航機能を活用した試験運航を実施できた。</li><li>・その結果、利用者の満足度は非常に高く、不満の回答はゼロ。</li><li>・様々な周知活動により認知が広がり、徐々に利用が増えた。</li></ul> <h4>■運航事業者の意見より</h4> <ul style="list-style-type: none"><li>・従来のGPSに加えて、AI-CPATAIN（自動運航システム）のGPSやセンサー、そして船長の勘や経験により、航路の安全性が向上した。</li><li>・船の業界に人材が集まらないという問題があるが、AIを活用するようになると、若くITが得意な人材がエンジニア兼船長として力を発揮可能。</li></ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・自動運航船の取り組みに対して、町民等への周知・浸透を一層深めることで、実際の利用に繋げることが必要。</li><li>・今回は1月～3月に試験運航を行ったが、例えば、広島市内でのスポーツ観戦が可能な季節など、夜間の移動需要が期待できる時期に運航を行い、需要量を確認することが必要。</li><li>・深刻な船員不足への対応や運航コスト縮減に向けては、自動運航技術を活用した「完全無人運航」実現が有効だが、現状では法制度の制約より船長の乗船が必須であり、将来に向けて、法制度の見直しを含めた実施環境の整備が必要。</li></ul>